

株式会社 読売新聞東京本社

全国の支局に配置した出稿用端末にゼロクライアントを導入
故障対応の迅速化、運用管理の負荷軽減を図り、日々の紙面制作を支える



目的

- 編集システムにおける端末の老朽化、Windows XP サポート終了への対応
- 全国に配置した端末の故障対応の迅速化
- 遠隔地にある端末の運用管理の負荷軽減
- 端末とOSを切り離した運用の実現

アプローチ

- 編集システムの一部にVMware Horizon Viewによるデスクトップの仮想化を導入。仮想環境上にWindows XP環境を構築することで、業務継続の確保とWindows 7への移行のための時間を創出した。
- 加えて端末にVMware Horizon Viewに特化したゼロクライアント「HP t310 Zero Client」を導入することで懸案だった遠隔地における端末の故障対応の迅速化、運用管理の負荷軽減を図る
- 海外での利用も視野に入れ、複数の画面転送プロトコルの性能検証を行い、PCoIPの性能を確認

システムの効果

- 故障時、既存の物理端末の場合、6時間を要した端末構築作業をHPゼロクライアントは30分に短縮
- OSと端末を切り離した運用により、将来、端末の増設や、故障した場合の入れ替えの時も現地で新しいゼロクライアントに入れ替えるだけ、搭載アプリ等の更新作業もサーバー側で一元的に実施

ビジネスへの効果

- VMware View環境へのPCoIPでの接続、ハードウェア処理によるPCoIP処理の高速化により海外などの遠隔地においても快適に利用
- オートログインですぐに作業を開始できる既存の運用を継承、利用者は従来と変わることなく作業に集中
- OSレスのゼロクライアントにより端末セキュリティを強化
- 今回の実績とノウハウを活かし、今後、他業務の端末への展開を検討

日本のジャーナリズムを牽引する読売新聞。紙面制作の要となる編集システムは業務継続が不可欠だが、Windows XPのサポート終了が迫る2011年に大きな課題に直面した。端末の老朽化に対応するための部品交換やWindows XP搭載端末の入手が困難となった。そこで同システムの一部に仮想化を導入し、仮想環境上にWindows XP環境を構築することで業務継続の確保とWindows 7への移行のための時間を創出した。また仮想環境を利用し、懸案だった遠隔地における端末の故障対応の迅速化、運用管理の効率化を図るべくHPゼロクライアントを採用。選択の理由はOSレス、PCoIP、オートログイン、コストパフォーマンスなど同社のニーズを満たしていたためだ。初期展開端末の運用結果が良好だったことから当初予定200台を上回る導入台数の拡張を計画し、オリンピックなど海外の大きなイベントでも活用していく。

紙面制作の要となる 編集システムの端末が老朽化

毎日、約1,000万部を発行する世界最大部数の全国紙、読売新聞。1874年(明治7年)の第一号発行以来、常に正確・公正・迅速なニュース報道と、日本と世界の平和、繁栄に寄与する果敢な提言報道により多くの読者から支持を得ている。新聞事業を中心に、スマートフォンやWebサイトなどさまざまな媒体で情報を提供。また読売巨人軍などスポーツや文化イベントの企画、運営なども展開する総合メディア企業として躍進を続けている。

新聞事業の核となる取材拠点は、国内が東京、大阪、西部の3本社のもと、3支社、

136総支局、海外が28総支局で国内外をカバー。取材現場などから記者の原稿やカメラマンの写真はネットワークを通じてデータ管理システムに送信、同システムで一元管理される。取材原稿を統括するデスクは、データ管理システムと連携した編集システムを使って原稿を整え、写真を選択し記事化していく。デスクが作成した出稿データは新聞紙上のみならずWeb上にも展開される。

デスクは、政治、経済、国際、社会、運動といった各出稿部や、日本全国の総支局に配属されており、出稿用端末は約1,100台に及ぶ。国政選挙など記事量が多いときを想定し1支局、4台～6台が置かれているという。2011年、日々、デスクが



読売新聞東京本社
制作局技術一部
次長 竹田浅昭氏



読売新聞東京本社
制作局技術一部
主任 福田明氏

記事を出稿するのに利用している出稿用端末においてハードウェアの老朽化とWindows XPのサポート終了への対応が課題となっていた。

「問題なのは、ハードウェアが故障しても交換する部品がなく同等のWindows XP端末の入手も困難になることです。Windows 7への移行も検証など時間と手間がかかります。明日、端末が修理不可になったらどうするのか。そこで、同システムの一部に仮想化を導入し、仮想環境上にWindows XP環境を構築することで、業務継続性の確保とWindows 7への移行のための時間を創出することにしました」と、紙面制作系のシステムの構築、運用を担う制作局技術一部次長竹田浅昭氏は話す。

2010年にVMware vSphereによりデータ管理システムの入出力サーバー群の仮想化を実現した実績とノウハウを活かすべく、デスクトップ仮想化ソフトウェアにVMware Horizon Viewを採用。2011年10月から事前検証を開始したが、編集システムの端末は老朽化以外に運用面でも重要な課題を抱えていた。

総合評価とコストパフォーマンスでHPゼロクライアントを採用

遠隔地にある出稿用端末の故障対応の迅速化と運用業務の効率化をいかに図っていくか。運用面の課題は技術一部における懸案事項だった。

「従来、出稿用端末の故障連絡を受けると、予備機をセットアップして配送し現地で入れ替えるなど対応に2、3日を要しました。1台の端末が壊れても別な端末で対応できるように余裕をもって配置していますが、万一、大きなニュースなどの発生と重なってしまうと大変です。またOSのサポート終了による影響を端末が受けることのないように、端末とOSを切り離した運用の実現も課題でした。こうした課題の解決策として、シンクライアントの導入を決断

しました」と、制作局技術一部主任福田明氏は振り返る。

2012年5月からシンクライアントの検討を開始。機種選定では1.端末の運用管理の負荷軽減、2.遠隔地での快適な利用、3.オートログイン機能による利用の継承の3つのポイントが重視された。

「1.端末の運用管理の負荷軽減」の観点では、通常、PCにおいて必要となるウイルス対策ソフトやOSのパッチ当ての更新作業などを必要としないことが求められた。

「2.遠隔地での快適な利用」の面ではPCoIP(PC over IP)がポイントになったという。表示画面のみ送信するデスクトップの仮想化において、データはサーバー側で処理されるため低帯域のネットワークでもスムーズな画面表示が可能となる。PCoIPは、帯域幅への影響を最小限に抑え、帯域幅と画像品質の最適化を図ることで画面転送によるメリットを活かすことができる。PCoIPの利用について「国内だけでなく、オリンピックなど海外の大きなイベント開催時、現地に支局を設置して出稿用端末を利用するケースも想定しています。2012年7月のロンドンオリンピックにおいて、RDP(Remote Desktop Protocol)、PCoIP、既存の物理環境での出稿アプリの動作性能検証を実施したところ、PCoIPは既存の物理環境と比べ1/6のスピードを実現し最も優れた結果となりました」と福田氏は話す。

「3.オートログイン機能による利用の継承」は、デスクが端末を使う際、とまどうことがないようにするうえで重要なポイントだった。「出稿用端末は、出稿業務に特化し、デスクしか利用しない端末です。そのため毎回、パスワードやIDを入力するのではなく、電源を入れたらオートログインですぐに必要な画面が立ち上がり編集作業に集中できるといった運用を行っています。端末をリプレースしても運用は変えないことが前提でした。従って、あらかじめ設定しておいた仮想デスクトップに自動的に



HP t310 Zero Client



割り当てることができる機能をカスタマイズで追加することが必要でした」(福田氏) 各社から製品の貸し出しを受け、実機で検証を重ねた結果、「シンクライアント導入の3つのポイントをクリアし、PCoIP専用のTera2チップ搭載による高性能、省スペースなどの総合的な評価と、優れたコストパフォーマンスによりHP ゼロクライアント「HP t310 Zero Client」を選択しました。懸案事項だったオートログインなど当社が必要としている機能も実現できることは検証で確認しました」(竹田氏)

初期展開運用の良好な結果により ゼロクライアントの適用範囲を拡大

2012年12月、「HP t310 Zero Client」の採用が決定し、2013年1月末に初期展開運用を開始。東京本社の技術一部でセットアップを行ったが、ひな型をつくってしまえば、あとは個別のIDやIPアドレスなどの設定のみのため5分ほどで作業は完了した。「初期展開運用の結果が良好だったことから、当初の予定200台を上回る導入台数を計画しています。今後、集約率を考慮しながらゼロクライアントと物理環境の端末の台数の最適化を図っていきます」(福田氏) 現在、技術一部はアプリケーションのWindows 7への移行に取り組んでおり、ゼロクライアントの全国展開、更新したアプリケーションのゼロクライアントでの利用などこれから本格的な運用がスタートする。

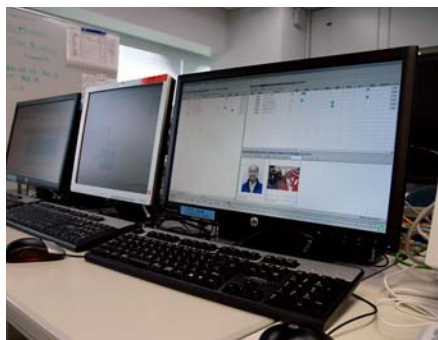
故障対応の迅速化、端末と OSを切り離した運用を実現

テスト運用の段階ではあるが、ゼロクライアントは利用者に好評とのことだ。今回、ノートPCとの入れ替えとなったが、机上スペース面での不満がでることもなく、「ゼロクライアントはこんなに小さいのか」と驚いていたという。ゼロクライアント本体はHP製のモニターに背負わせるかたちで

さらなる省スペース化も可能となる。またノートPCのディスプレイに比べて画面サイズが大きくなったことで文字が見やすくなったと評価する声もある。運用面では、OSレスであることから端末側でバージョンアップを行う必要もなくなり、端末とOSを切り離した運用を実現できた点はメリットが大きいという。仮想環境によりOSやアプリケーションの更新もサーバー側で一元管理でき、遠隔地から全国の端末を一斉に更新できる。

ゼロクライアントはハードディスクを搭載していないため故障率は極めて低いが、万一、故障した場合の作業も物理端末の場合は6時間を要したが、ゼロクライアントはセッティングしたものと入れ替えるだけ、作業は30分で済むという。

今後について「全国への展開をスムーズに行い、安定して運用していくことが第一です。また、今回のゼロクライアントの導入実績やノウハウを活かし、他業務の端末への展開も検討していきます。HPIには、先進的な提案はもとより、ゼロクライアントのラインアップの一層の充実により選択肢の幅を広げていただくことも期待しています」と竹田氏は話す。139年にわたり日本のジャーナリズムを牽引し続けている読売新聞。毎日、多くの読者が待っている記事の制作をHP ゼロクライアントはICTの側面から支えていく。



株式会社 読売新聞東京本社 概要

本社

東京都中央区銀座6-17-1

創刊

1874年(明治7年)11月2日

資本金

10億円

従業員数

3,133人

(男2,641人、女492人、2013年9月現在)

発行エリア

石川、岐阜、愛知、三重以東の23都道府県

事業概要

読売新聞は、イギリスの「ギネスブック」が認定した世界一の発行部数を誇り、日本を代表する全国紙です。発行部数は日本ABC協会報告9,859,314部(朝刊のみ、3本社合計、2013年5月現在)

<http://info.yomiuri.co.jp/>

お問い合わせはカスタマー・インフォメーションセンターへ

03-5749-8343 月～金 9:00～19:00 土 10:00～17:00(日、祝祭日、年末年始および5/1を除く)

HPのシンククライアント製品に関する情報は <http://www.hp.com/jp/thinclient>

本ページに記載されている情報は取材時におけるものであり、閲覧される時点で変更されている可能性があります。予めご了承下さい。

本書に含まれる技術情報は、予告なく変更されることがあります。

記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

記載事項は2013年10月現在のものです。

© Copyright 2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

日本ヒューレット・パカード株式会社

〒136-8711 東京都江東区大島2-2-1

CDT13137-01

